

## 中核市サミット高松宣言

中核市は、制度創設以来、社会情勢の変化に対応しながら、地域の中核的都市として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

しかしながら、今後は、本格的に到来する人口減少社会において、それぞれの地域が経済的にも社会的にも活力を失わず、人々が真の豊かさや幸せを実感しながら暮らしていけるための方策を真剣に模索、検討しながら、都市の再生を図っていく必要があります。

本サミットでは、「持続可能性の先に灯す希望を求めて～人口減少社会への対応～」というテーマの下、「地域コミュニティ」、「コンパクトシティ」、「地域包括ケア」に焦点を当てて協議を行い、次のとおり、中核市43市が連携し、課題解決に向けて取り組むことといたしました。

- 1 中核市は、住民生活の基盤である地域コミュニティが抱える課題の複雑化・多様化に対応するため、行政としての関わりやコーディネートの在り方を最適なものとしながら、その主体的で自立的な活動を多面的に支援することにより、多様な主体が参画する協働のまちづくりを推進します。
- 2 中核市は、コンパクトシティを目指す上で適切な都市規模と能力を有することを認識し、それぞれの都市が自らの特性や現状を踏まえながら、将来あるべきまちの形を住民とともに展望し、ソフト・ハード両面における英知を傾注することにより、それぞれの都市にふさわしいコンパクトシティの形成を推進します。
- 3 中核市は、高齢者が住み慣れた地域で尊厳を保ち、自分らしく暮らし続けることができるよう、これを支える地域包括ケアシステムの実現を急務とし、地域の住民及び保健・医療・福祉関係者による相互連絡体制を構築するなど、地域資源の有効活用と多様な主体の参加が得られる仕組みづくり・場づくりに取り組めます。

私たち中核市は、これらの諸課題の解決を通じて、中核市が持つ役割をしっかりと担いながら、それぞれの地域の特性を生かして都市の再生に果敢に取り組むことで、地方分権改革の推進と中核市制度の充実強化並びに我が国の都市政策のこれからの方向について、全国に発信していくことを、ここに宣言します。

平成26年11月6日

中核市市長一同